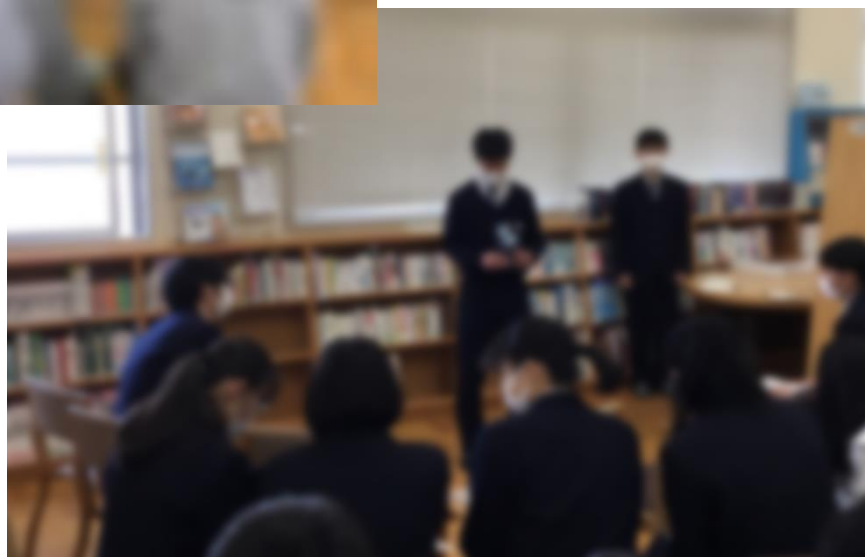


令和4年度

滋賀県パフォーマンステスト事例集



滋賀県教育委員会事務局高校教育課

1. パフォーマンステスト事例集作成にあたって

今年度から新しい学習指導要領が年次進行で実施されています。高等学校の外国語科では「情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することが目標とされるとともに、育成を目指す資質・能力の3つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」及び「学びに向かう力、人間性等」ごとに、各目標が設定されました。

今回の改訂では、これまでの英語教育の課題であった「話すこと」および「書くこと」などの言語教育の充実が特に大きなポイントになっています。これまで以上に授業では、発音・語彙・文法等の間違いを恐れず、積極的に英語を使おうとする態度を育成することと、英語を用いてコミュニケーションを図る体験を積むことが求められています。従って、今後の英語教育においては、授業で生徒が英語を使用し、情報や考えを伝え合うこと、そして、生徒は表現を適切に評価するパフォーマンステストを充実させることが特に必要になると言えます。

ところが、このことについて令和3年度の英語教育実施状況調査結果では、授業における生徒の英語による言語活用は39.2%（全国50.3%）、「話すこと」および「書くこと」における英語表現力を評価するパフォーマンスの実施状況は、25.6%（全国38.4%）となっており、生徒の英語発信力の育成を目指した授業改善が本県の英語教育課題として明らかになっています。

こうした課題を踏まえ、今年度の英語発信力育成事業では、英語発信力を育成する授業モデルの研究と合わせて、パフォーマンステストを効果的に行う方法としてICTの利活用に注目し、推進委員の先生方とパフォーマンステストの研究と実践に取り組みました。

実践にあたっては、文部科学省が作成している「高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料」、「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」、や「滋賀県版CAN-DOリスト」を参考にしながら、生徒や学校の実態に応じたパフォーマンステストの計画および実施を行いました。特に、パフォーマンステスト作成上の留意点として、パフォーマンステスト作成上のTips（次ページ下段）はパフォーマンステストの基本的な考え方として参考にしました。

今回の事例集では、計8つのパフォーマンステストを紹介しています。特に、今年度は指導と評価がイメージしにくい「話すこと」に焦点を置いたことから、全ての実践事例は「話すこと」の技能が対象になっています。各事例では、滋賀県版CAN-DOリストを活用し、学習到達度目標を示すとともに、パフォーマンステストに向けた指導と実施後の指導の連続性を意識した指導を示しています。

また、いずれの事例においても、新しい学習指導要領の評価観点を適切に見取るため、漫然とした言語活動ではなく、英語の授業を通して、「何を理解しているか、何ができるか」（知識及び技能）、「理解していること・できることをどう使うか」（思考・判断・表現）という視点に立ち、言語活動の実践に取り組んでもらいました。具体的には、生徒が英語を使って、話す目的・場面・状況が設定されており、その場面に応じた語彙や表現の活用、また生徒が内容を思考したり、状況や場面に応じて語彙や表現を判断したりしながら表現することが求められるパフォーマンステストになっています。

最後になりますが、本事例集作成にあたっては、滋賀大学大嶋秀樹教授（北部グループの指導助言者）と京都外国語大学安木真一教授（南部グループの指導助言者）より学習指導要領を踏まえた指導の観点から、パフォーマンステストを行う際の目的や場面の設定方法、評価方法などをご指導いただきました。さらに、ICTを取り入れたパフォーマンステストの実施方法として、活用内容と場面を示し

ていただき、パフォーマンステストを円滑に実施する指導上の手立てを考える知見を与えていただきました。

今回の事例集は各校でのパフォーマンステストの実施にあたり、本事例集を指導改善の資料となることを目標に作成しております。事例集の中には実際に使用された授業プリントも含まれている事例もあります。そうした資料も参考にいただきながら、多くの学校でパフォーマンステストを実施されることを期待しております。

パフォーマンステスト作成上の Tips (高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料)

- ・目標に準拠した指導とパフォーマンステストを実施しましょう。
- ・授業で扱った話題に関連した課題にするなどして、語彙や表現、文法事項などの言語材料が活用できるようなテストを行いましょう。
- ・生徒のコミュニケーションを図る力の育成につながるようなパフォーマンステストを行いましょう。
- ・学校の外国語（英語）の同じ科目を担当する教師で、テストの内容や評価時期などを考え計画しましょう。
- ・テストを受けるまで待つ生徒の扱い、テストでの生徒の ICT の活用、テストの記録方法や採方法など、学校の実態に応じて工夫しましょう。
- ・テストを実施したら、課題を次のテストに生かし、テストの改善を図りましょう。

2. 本事例集の活用方法

事例集では共通の様式を用いて、パフォーマンステストに事例をまとめています。以下には、事例集の見た方を示しています。

パフォーマンステスト実践例（様式）

滋賀 CAN-DO リストをもとに記入

領域： <input type="text"/>	対象学年： <input type="text"/> 年生	ターゲット CEFR： <input type="text"/>
滋賀県モデル「CAN-DO リスト」 到達度目標レベル <input type="text"/>	<input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 話すこと（やり取り） <input type="checkbox"/> 話すこと（発表） <input type="checkbox"/> 書くこと	<input type="text"/>

パフォーマンステストの内容（言語活動の目的・場面・状況など）

目標をもとに作成したパフォーマンステストの概要について

パフォーマンステスト前後の指導または、学習活動など

[パフォーマンステスト当日まで]
当日までの指導や学習活動について

[パフォーマンステスト当日]
パフォーマンステストの手順や指導上の留意点について

[パフォーマンステスト後]
結果の評価やフィードバック、指導改善などについて

パフォーマンステストの当日の準備物

ICT 機器など：（使用された ICT 機器） 使用アプリなど：（使用されたアプリ）

採点の基準

採点時に使用した条件について

評価項目

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	各観点の評価基準を記入する		
b			
c			

パフォーマンステスト作成上のねらいと工夫

作成上のねらいと工夫した点を記入してください。

パフォーマンステスト実践例（コミュニケーション英語Ⅱ）

領域：話すこと（発表）	対象学年：2年生	ターゲット CEFR：A2.2
滋賀県モデル「CAN-DO リスト」 到達度目標レベル【 ⑥ 】	<input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 話すこと（やり取り） <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと（発表） <input type="checkbox"/> 書くこと	興味・関心のある話題について、写真や絵などを用いて、短い発表やスピーチをすることができる。

パフォーマンステストの内容（言語活動の目的・場面・状況など）

<p>特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International に携わる学生として、NY 支局に協力し、海外の企業や団体にプロジェクトに参加をしてもらうよう、プレゼンテーションをすることになった。</p> <p>【プレゼンテーションに含めるべき5つのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Table for Two(TFT)とは何か、その狙いや仕組み ・ TFT プロジェクトが支援している国の一例 ・ TFT プロジェクトへの参加の仕方 ・ TFT に参加している企業や団体の活動例 <p>→5人グループで自分たちが所属している大学名を決め、上記のポイントについてグループ内でそれぞれの役割分担をする。</p>

パフォーマンステスト前後の指導または、学習活動など

<p>〔パフォーマンステスト当日まで〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パートごとに語彙の導入、内容理解・音読をしたうえでペアによるリテリング活動を行い、学んだ語彙や表現を用いながら各パートの概要（Table for Two の概要）をまとめて、説明できるようにする。（4パート、4時間） ・ 5人1組のグループとなり、大学名を決め、5つのポイントのうち、どのポイントについてプレゼンテーションを行うか、グループ内で役割分担を決める。可能な限り、本文の構成や表現を用いて、作成するように指導する。また、Table for Two の HP を参考に、Teams を利用しグループで協力しながらパワーポイントのスライドを作成する。（Teams のパワーポイントによる共同作業。）スライドを用いてグループごとに発表の練習をさせる。（3時間）

<p>〔パフォーマンステスト当日〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表時間は1グループ最大6分。（1人あたり1分程度。） 2. プレゼンテーションスライドは事前に Teams のファイルに保存したパワーポイントのスライドを用いて、指示した5つのポイントを踏まえたプレゼンテーションを行う。 3. 聞き手は TFT への参加を検討している企業や団体の担当者の立場でプレゼンテーションを聞き、各グループの TFT プログラムに参加をしたいかどうか、審査を行う。 4. Forms のアンケート機能を用いて、最も参加したいと思ったグループを選び、全体で発表する。

<p>〔パフォーマンステスト後〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価基準に照らし合わせて、教師は生徒の発表の様子を個々に評価する。 ・ 生徒の発表の様子から、良かった点を全体にフィードバックする。
--

パフォーマンステストの当日の準備物

使用教材：Polestar English Communication II

Lesson 3 Table for Two – Helping Others as You Eat

ICT 機器など：生徒貸し出し用端末、プロジェクター

使用アプリなど：Teams (Power Point, Forms)

採点の基準

条件：作成したスライドを用い、指定した条件を踏まえながら担当するトピックについて、その概要をまとめ、話している。

評価項目

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 語彙・表現が正しく、適切に使用されている。 ✓ 適切に発音ができおり、わかりやすく話している。 	条件を満たしたうえで、各自担当のポイントについて、ジェスチャーなどを用い、具体的な説明を加え、わかりやすく伝えている。	条件を満たしたうえで、聞き手にわかりやすいようアイコンタクトを用い、十分な声の大ききで伝えようとしている。
b	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 語彙・表現の使用に多少の誤りはあるが、理解ができる程度である。 ✓ 発音に誤りがあるが、理解ができる程度である。 	条件を満たし、話している。	3つの条件を満たして話、伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

採点は、5・3・1の3段階にする。

パフォーマンステスト作成上のねらいと工夫



- ✓ 発表の基本的なルール(構成上の工夫、アイコンタクトやジェスチャー、声の大ききなど)について学習をする機会としたい。
- ✓ 企業・団体に Table for Two プロジェクトに参加してもらおうという目的意識を持たせ、プレゼンテーションスライドの作成および、発表するように指導する。学んだ内容について、正しく理解するとともに、発表に向けて詳しく内容について調べ合う協働的な学習活動を設定することで、思考力・判断力・表現力育成したい。
- ✓ 聞き手には TFTに参加することを検討している企業・団体の担当者の立場からプレゼンテーションの内容を審査させることで、主体的に聞くことができるように指導を工夫する。また、発表者も、聞き手に参加してもらえよう、話し方や内容についてどのような工夫ができるか事前に考えて発表するように指導する。

Lesson3 Table for Two—Helping Others as You Eat

まとめの活動



【Situation】

あなたたちは TFT プロジェクト のメンバーである学生です。

少しでも多くの学校食堂・レストラン、カフェ、お店などを運営する企業に TFT プロジェクトに参加してもらうため、TFT NY支局に協力し、アメリカの企業に対しプレゼンテーションをする機会をもらいました。

効果的にプレゼンテーションを行い、参加してもらえるよう工夫しましょう！

【Procedure】

1. 1グループ5人のグループを作ります。(クラスで8グループ)

グループ名を決めましょう。(OO University、The University of OO など)

2. グループでプレゼンテーションの準備をします。

プレゼンテーションには次の5つのポイントを入れましょう

- ① TFTプログラムのねらい・解決しようとしている問題
- ② TFTプログラムを通して子どもたちに給食が届く仕組み
- ③ TFTプログラムが支援している国の一例
- ④ どのようにTFTプロジェクトに参加できるか
- ⑤ 日本国内でTFTプログラムに参加している企業の一例

3. プレゼンテーション

発表グループ= TFTプログラムに参加してもらうようプレゼンテーションをする学生

→TFTプログラムに参加してもらえるよう、効果的にプレゼンテーションをしよう！

聞き手=TFTプログラムへの参加を検討している企業の社員

→グループごとのプレゼンテーションを聞き、TFTプログラムに参加するかどうか決めよう！

*発表時にはリスナーを見て、相手に伝わるように効果的にプレゼンテーションしよう。
相手に伝わるように大きな声で発表しよう。

【STEP 2：発表準備について】

- ◇ Table for Two のサイトから必要な情報をまとめ、英語で発表できるよう準備しよう。
- ◇ 準備はみんなですが、プレゼンテーションでは5つのポイントをそれぞれのメンバーが発表できるよう役割を分担しましょう。
- ◇ プレゼンテーションの時間は1人1分程度、1グループ6分までとします。伝えたいことをしっかりとまとめましょう。
- ◇ グループに1台の端末を使い、簡単なパワーポイントスライドショーを作りましょう。
 - ✓ プレゼンテーションの一枚目にはグループ名（大学名）を入れましょう。
 - ✓ 聞き手がわかりやすいように、たくさんの情報を入れすぎないこと。
 - ✓ 文字のフォントサイズは32ポイント以上にすること。
 - ✓ Table for Two のサイトの画像やグラフを使うことも OK です。
 - ✓ 5つのポイントそれぞれに対して1枚のスライドにしましょう。

【STEP 3:プレゼンテーションについて】

- ◇ 発表時間は1グループ最大6分までです。
- ◇ 聞き手は企業として、プレゼンテーションを行ったグループの TFT プログラムに参加したいかどうかを審査しましょう。
- ◇ 審査の基準と記入表は裏面です！
- ◇ 発表は次の点から始めましょう。
 - ✓ あいさつ “Hello, everyone!” など
 - ✓ どの大学から来たのか “We are TFT staff from ○○ University.” など
 - ✓ TFT プロジェクトに参加してもらうためのプレゼンテーションであることを伝える。
“We are here today to introduce our TFT project.” など
- ◇ 発表の締めくくりは
 - ✓ 紹介したプロジェクトは素晴らしいので参加してほしいという気持ちを伝えよう！
- ◇ スライドの提示はトピックごとにしましょう。端末の操作は話す人以外で協力して行うなど、役割分担をしよう！

【資料2：生徒の相互評価ワークシート】

審査基準

	5点	3点	1点
アイコンタクト	メンバー全員がしっかりと顔をあげて話している。	だいたいのメンバーが顔をあげて話している。	多くのメンバーが顔をあげて話していない。
声の大きさ	メンバー全員の声が教室の後ろまでよく聞こえる。	だいたいのメンバーの声が教室の後ろまでよく聞こえる。	多くのメンバーの声が教室の後ろまで聞こえない。
内容	全体的によくわかりやすく構成されていて、内容もよく工夫されている。	おおよそわかるよう構成されている。	あまりうまく構成されておらず、わかりにくい。

Group Name (University)	Eye contact (アイコンタクト)			Delivery (声の大きさ)			Content (内容)			Total (合計)	Join or not
	5	3	1	5	3	1	5	3	1		
	5	3	1	5	3	1	5	3	1		
	5	3	1	5	3	1	5	3	1		
	5	3	1	5	3	1	5	3	1		
	5	3	1	5	3	1	5	3	1		
	5	3	1	5	3	1	5	3	1		
	5	3	1	5	3	1	5	3	1		

13点以上…参加!→○
12点以下…参加しない!→×

評価について、次回以降のパフォーマンステストでは、

英語のイントネーションやリズム、発音などの評価も加えることも検討しています。

【資料3：生徒の振り返りシート】

1. 準備では、グループのメンバーと協力して、内容やプレゼンテーション資料を準備することができた。

よくできた ・ まあできた ・ あまりできなかった ・ ぜんぜんできなかった

2. 準備では、Lesson 3 で学んだ内容や英語の表現を生かすことができた。

よくできた ・ まあできた ・ あまりできなかった ・ ぜんぜんできなかった

3. プレゼンテーションでは、聞き手の顔をしっかり見て話すことができた。

よくできた ・ まあできた ・ あまりできなかった ・ ぜんぜんできなかった

4. プレゼンテーションでは、みんなに聞こえるよう大きな声で発表することができた。

よくできた ・ まあできた ・ あまりできなかった ・ ぜんぜんできなかった

5. プレゼンテーションでは、みんながわかりやすいようつなぎ言葉やジェスチャーを使い構成にも工夫して発表することができた。

よくできた ・ まあできた ・ あまりできなかった ・ ぜんぜんできなかった

6. この発表を通じて、学んだこと、これができた！ということを書きましょう。

7. この発表を通じて、課題として残ったことについて書きましょう。

パフォーマンステスト実践例（コミュニケーション英語Ⅱ）

領域：話すこと（発表）	対象学年：2年生	ターゲット CEFR：A2.2
滋賀県モデル「CAN-DO リスト」 到達度目標レベル【 ⑥ 】	<input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 話すこと（やり取り） <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと（発表） <input type="checkbox"/> 書くこと	興味・関心のある話題について、写真や絵などを用いて、短い発表やスピーチをすることができる。

パフォーマンステストの内容（言語活動の目的・場面・状況など）

<自分が興味・関心のある革新的な人について英語で紹介しよう>

Lesson 4 でファッション業界に影響を与えたガブリエル・ココ・ココシャネルや IT 業界を牽引したスティーブ・ジョブズなどの革新者について学習した後、自分が興味・関心のある革新者について、人物を選んだ理由や人物の功績や世界への影響について、写真などを用いながら英語で紹介する。発表の様子を動画で撮影し、その映像を Teams で提出する。

パフォーマンステスト前後の指導または、学習活動など

[パフォーマンステスト当日まで]

授業外での準備として

- ・日々の課題として、Reading Progress を用いて教科書の各パートの音読練習を行うように指導する。（発音の認識感度「中」での正解単語数、誤発音などの回数、試行回数をそれぞれ5点満点する。）

授業内での準備として

- ・授業者が発表のモデルを事前に示す。
- ・パート終了時に、教科書の重要表現や単語を用いたリテリング活動を行う。必要に応じて、リテリング内容を提出させ、フィードバックを行う。
- ・紹介する人物を決め、前日までに紹介する人物についての原稿を回収する。
- ・2人1組での発表練習の時間を設ける。
- ・1人1分30秒を目標に発表し、Teams で提出するように指導する。
- ・当日までに、Teams での提出方法を説明する。環境が整っていない生徒に対して別途対応する。提出方法として、教員の投稿に対して、出席番号、名前を明記し、動画を添付し、返信する。

[パフォーマンステスト当日] 手順や指導上の留意点

1. 注意事項を伝える。

（わかりやすさ、視覚的効果、発表態度[発音・アイコンタクト・ジェスチャー・声の大きさ等]、時間など）

2. 発表練習後、ペアで1人10分以内で発表の様子を動画撮影するように指示する。

3. 撮影後、Teams 上に提出する。時間内に提出ができなかった生徒は自宅から提出する。提出された動画は授業担当者が Teams から動画をダウンロードし、Teams 上からは削除する。

[パフォーマンステスト後]

- ・教員は評価を成績に加味する。（a:5点 b:3点 c:1点）
- ・時間があれば、授業中に鑑賞会を行い、生徒間で評価をする。
- ・Reading Progress による音読練習を継続させる。教師によるフィードバックも適宜行う。

パフォーマンステストの当日の準備物

使用教材など：

- ・相手に紹介する写真など
- ・発表の様子を撮影する端末、タイマー、ベル、コンピューター、プロジェクター、スクリーン

パフォーマンステストの授業展開例

- 5分 注意事項
- 10分 原稿を相手に渡しペアで発表練習、評価者は原稿裏の評価表に○をつける（1人5分）
- 20分 ペアで動画を撮る
- 10分 動画提出、代表で1，2名の動画を全体に示す
- 5分 各自振り返りと原稿を提出

採点の基準

- ・条件1 発表する革新者について、選んだ理由を具体的に述べている。
- ・条件2 人物の功績を具体的に述べている。
- ・条件3 人物がどのような影響を世界に与えたか、または自分自身への影響を具体的に述べている。

評価項目

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	既習の語彙や表現が適切に使用され、内容も英語も大変わかりやすい。	3つの条件を満たし、効果的に写真などを使用し、発表内容を分かりやすく伝えることができている。	3つの条件を満たし、効果的に写真などを使用し、発表内容を分かりやすく伝えようとしている。 *参考:態度(アイコンタクトや声の大きさなど)が全て大変良い。
b	誤りはあるが、既習の語彙や表現が使用され、理解できる。	3つの条件を満たし、写真などを使用し、発表内容を伝えることができている。	3つの条件を満たし、写真などを使用し、発表内容を伝えようとしている。 *参考:態度(アイコンタクトや声の大きさなど)ができている。
c	話される英語が全く理解できない。	3つの条件を全く満たしていない。	3つの条件を全く満たさず、写真なども使用されておらず、発表内容を満たしていない。


採点時には、点数に幅を持たせるために5・3・1の3段階にする。

パフォーマンステスト作成上のねらいと工夫

<発表者>

- ・他者に紹介するという目的意識を持たせ調べ学習に取り組みさせることで、単元を通して学習した内容をさらに深める言語活動としたい。
- ・教科書を通して学んだ内容と関連性を持たせた言語活動を行うことで、既習の語彙・表現の活用方法や論理の展開の仕方について、学びを深める機会としたい。
- ・普段から取り組んでいる Teams を活用した音読練習の必要性を再認識させたい。

パフォーマンステスト実践例(コミュニケーション英語Ⅱ)

領域：話すこと（発表）	対象学年：2年生	ターゲット CEFR：B1.1
滋賀県モデル「CAN-DO リスト」 到達度目標レベル【 ⑦ 】 	<input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 話すこと（やり取り） <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと（発表） <input type="checkbox"/> 書くこと	興味・関心のある様々な話題についての自分の意見を、理由を挙げながら、短い発表やスピーチで伝えることができる。

パフォーマンステストの内容（言語活動の目的・場面・状況など）

<p>プレゼンテーション</p> <p>教科書で落語が外国でも人気である事実に触れ、国際化した日本独自の文化について調べ、その概要説明、海外での発展の過程、その文化に対する個人的な思い出や経験談、そこから得られる教訓などに触れながら4人でグループプレゼンテーションを行う。調べる日本文化については教員が準備した15種類（けん玉、薬、折り紙、歌舞伎、和服、など）の中から選択する。</p>

パフォーマンステスト前後の指導または、学習活動など

<p>[パフォーマンステスト当日まで]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT にモデル発表を実施してもらい、生徒に発表の手本を示す。 ・教科書本文を使ったりテリング活動を通して、教科書のプロット、語彙や表現を使いながら、人に紹介する言い回しについて学ぶ。 ・グループで発表する題材を選び、発表の構成を練り、各自で調べて原稿を作成する。（宿題） ・視覚素材やレジュメなどを準備し、時間を測るリハーサルを一度だけする。 ・視覚素材は発表内容の理解を助けてくれるので、丁寧に準備するよう指導する。ただし、スライドを見て発表させるために、スライドの文字を減らすように指導する。 ・背伸びするよりも高校生らしい視点の方が瑞々しく、魅力ある発表になると指導する。
--

<p>[パフォーマンステスト当日]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表時間は1グループ最大3分で行う。 2. 聞き手は Contents（①導入に聴衆を引き込む工夫がある②内容に深みがあり、知的に面白い学びがある③着眼点に独自性があり、ユニークである）と Delivery（①スピード声量が適切で、聞きやすい②適度なジェスチャーを用いて伝えようとしている③自信をもって聴衆を見ながら話している）にわかれたルーブリックに基づき自分のグループ以外のプレゼンテーションを評価する。 3. 全グループが終わると、ワークシートに、発表を通して感じたことを日本語で、Lesson 全体を学習し終えて学んだことや気づいたことなどを英語でまとめる。
--

<p>[パフォーマンステスト後]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の評価に加えて教師もルーブリックを用いて評価する。 ・生徒の発表の様子を言語面と内容面から、フィードバックする。 ・班で1枚の発表原稿を提出し、ALT が添削、評価（ABC）を行う。

パフォーマンステストの当日の準備物

使用教材など：教科書や多読図書など *相手に紹介できる英語で書かれた本など
ICT 機器 など：BYOD 端末 プロジェクター
使用アプリなど：写真、パワーポイントなど個人の携帯電話などで
小道具：紹介できる実物などあれば

採点の基準

条件 ルーブリックを満たしている。

評価項目

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	・語彙や表現が適切に使用されている。 ・聞き手にわかりやすい音声等で話して伝えている。	導入に聴衆を引き込む工夫がある。内容に深みがあり、知的に面白い学びがある。着眼点に独自性があり、ユニークである。	3つの条件を満たした上で、自信をもって聴衆を見ながら話している。
b	・多少の誤りがあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 ・理解に支障のない程度の音声等で話している。	導入や内容、着眼点において、やや不十分などところがある。	3つの条件を満たして話して伝えようとしているが、自信がないところもあり、聴衆を見てないところもある。
c	「b」を満たしていない。	導入や内容、着眼点において、工夫が全く見られない。	3つの条件を全く満たしておらず、聴衆の方も全く見ていない。

パフォーマンステスト作成上のねらいと工夫

- ・ 2回目となるプレゼンテーションのため、導入の工夫や、個人的なエピソードのインパクトなど、より聴衆を意識して細部にこだわったプレゼンテーションになるように指導する。
- ・ 自分でも知らない日本文化が海外に知られていることに触れ、改めて日本文化に誇りを持つきっかけにしたい。
- ・ 聞き手が外国人であることを想定し、英語での情報伝達の質についてもこだわりも持たせたい。

This Is the Worldwide Japanese Culture!

□■グループプレゼンの内容■□

趣旨：海外の学生さんが聞いても感動するインターナショナルなプレゼンテーションを目指しましょう。Let them impressed with Great Japan!

- ①紹介したい日本産の技術、文化を選びましょう。
- ②それについて説明が必要な場合は説明を入れよう。
- ③応用的な技術、最新の驚くべき事象についてなど、聴衆を引き込む素材を盛り込もう。
- ④個人的な思い出や経験談など、話がグッと身近に感じるエピソードを盛り込もう。
- ⑤教訓や、メッセージを聴衆と共有しましょう。知的に深みのあるプレゼンにできます。

※題材によりますが、可能であれば「人」にフォーカスを当てましょう。その技術や文化が伝播する際のキーパーソンを示すことで発表がよりドラマティックになります。

※最初の導入が極めて大切です。主題を伝えるために効果的な導入を工夫しましょう。

POINT 1 あまり背伸びし過ぎず、高校生ならではの視点が新鮮で良いと思います！

POINT 2 実演やユニークなエピソード、ユーモアなどを用いて、聞いて飽きない工夫を入れよう。

トピック	メモ (Japanese or English)
紹介するもの	
① 導入 [担当:]	
② その概略説明 [担当:]	
③ さらなる情報 具体的素材 [担当:]	
④ 個人的なエピソード、体験談など [担当:]	
⑤ 教訓・メッセージ ・結論 [担当:]	

パフォーマンステスト実践例（英語表現Ⅱ）

領域：話すこと（発表）	対象学年：2年生	ターゲット CEFR：B1.1
滋賀県モデル「CAN-DO リスト」 到達度目標レベル【 ⑧ 】	<input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 話すこと（やり取り） <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと（発表） <input type="checkbox"/> 書くこと	日常生活の様々な話題について、自分の考えを説明や表現を工夫し、効果的に内容が伝わるように話すことができる。

パフォーマンステストの内容（言語活動の目的・場面・状況など）

<p>あなたは、「持続可能な社会をつくるには」というタイトルで、市のシンポジウムでスピーチをすることになりました。</p> <p>【プレゼンテーションに含めるべき3つのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が大事だと思う SDGs のゴールとそれによって解決が期待される社会問題 ・グラフや表などの資料の活用 ・SDGs のゴールの実現に向けて、自分自身が取り組みたいこと、または取り組むことが可能なこと。 <p>→3分程度のプレゼンテーションとする。必要に応じてメモを参照しながら話しても構わない。</p>
--

パフォーマンステスト前後の指導または、学習活動など

<p>〔パフォーマンステスト当日まで〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs について資料や映像を使いながら、各ゴールについての理解を深めるように指導する。 ・ 必要に応じて情報収集を行う時間や配布したワークシートを基にメモを作成する時間を設定する。 <p>【資料1】【資料2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モデル英文を提示し、その中で自分の意見を適切に伝えるための表現や方法について学ぶ。【資料3】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔指導する表現例〕</p> <p>○グラフや表を提示する際に使う表現 According to the graph... Take a look at this chart. This graph shows... As you can see, ... Let me give you an example. For example, ...</p> <p>○意見をまとめる際に使う表現 In conclusion, To sum up, ...</p> </div> <p>→できる限り例文を添えて提示しながら音読練習して提示することが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表時に使用するアウトラインやメモの作成を指導するとともに、発表用の原稿の添削を行う。原稿を見ず、スライドのみを見て、発表するように指導する。過去のスピーチコンテストの映像を活用し、優れた発表の特徴を指摘させ、評価の観点を共有する。 ・ 本番までに自分の発表を録画し、聞き手に分かりやすく発表できているかを確認させる。 ・ グラフや表はプロジェクターで提示し、スピーチの中で効果的に利用するように意識させる。

<p>〔パフォーマンステスト当日〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクターで資料を提示し、スピーチのタイトルを板書する。 2. 発表生徒は、原稿を教師に渡す。（教師はプロンプター） 3. 各生徒に要約シートを配布し、スピーチの要点をメモするよう指示する。【資料4】 4. 聞き手は、スピーチを聞いた後、3分間で要約とコメントを書く。スピーチの内容が伝わりにくい場合は、教師が要点を簡単に説明したり、板書したりするなどして支援する。 5. 教師はその場で「発表」についての採点を行う。録画した動画をもとに採点を行ってもよい。
--

[パフォーマンステスト後]

- ・ 発表生徒は、他生徒が要約を書いている間に自分の発表について振り返るように指示する。
- ・ 生徒の発表の様子を言語面と内容面から評価する。【資料5】
- ・ 次回の授業で該当生徒へ評価シートを返却する。

パフォーマンステストの当日の準備物

使用教材など：英語表現の教科書

ICT 機器など：プロジェクター

採点の基準

- 条件1 SDGs のゴールを選び、その現状について述べている。
- 条件2 グラフや表を適切に活用しながら、解決すべき課題について述べている。
- 条件3 ゴールに向けて取り組みたいことについて述べている。

評価項目

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none">・ 語彙や表現が適切に使用されている。・ 聞き手にわかりやすい音声等で話して伝えている。	3つの条件を満たした上で、関連した情報や自分の考えを詳しく述べて伝えている。	3つの条件を満たした上で、関連した情報や自分の考えを詳しく、分かりやすく述べて伝えようとしている。
b	<ul style="list-style-type: none">・ 多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。・ 理解に支障のない程度の音声等で話している。	3つの条件を満たして話している。	3つの条件を満たして話して伝えようとしている。
c	「b」を全く満たしていない。	「b」を全く満たしていない。	「b」を全く満たしていない。

採点は、5・3・1の3段階にする。

パフォーマンステスト作成上のねらいと工夫



- ・ 2年生では、総合的な学習の時間において、「SDGs の視点を取り入れたエコツアーの提案」について取り組んだ。SDGs の題材は教科横断的な視点で指導内容に深みを持たせることができる。
- ・ 英語表現の帯活動として毎時間一人ずつスピーチを行った。生徒は様々な社会問題に触れることができ、社会的な話題を扱った語彙や表現にも親しむことができた。

【資料1】スピーチ準備用ワークシート

Class _____ No. _____ Name _____

SDGs Presentation ~自分と社会をつなぐスピーチを考えよう~

1 Find your interest

あなたはどんな人間？何に興味がある？あなたにとって大切なことは？
気になっていることを書き出してみよう。



2 Find the problem

今課題だと感じていることを書き出してみよう。困っているのは誰ですか？現状を示すデータを探してみよう。

3 How can we change it? How can we solve it?

2の問題をよい方向に導く、または解決するためには、どんなことが必要だと思いますか？あなたの提案がうまくいけば何が変わると思いますか？

4 Connect your idea to SDGs …あなたのテーマに一番近い SDGs Goal number は？



【資料2】スピーチ発表についての指示文

SDGs Presentation ~スピーチ原稿を書いてみよう~

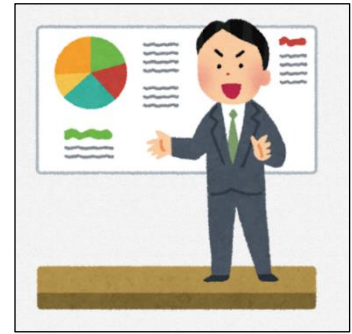
2学期の英語表現の授業において、スピーチ発表を行います。

スピーチの内容は、サンプルを参考にし、以下の流れで述べること。

- ①Introduction : SDGsの目標とタイトル
- ②Body : 自分が課題だと感じていることやその現状分析
(なぜそれが課題なのか)
: ②の状況を改善するために、自分が提案したいこと
※Bodyの中で必ずグラフや表などの数値的な要素を入れること
(難しい場合は、写真などでもよいが、その写真を説明すること)
- ③Conclusion : 自分の主張を再度述べる(できるだけ別の表現で)

原稿を作成するにあたっての注意:

- ① 聞き手は高校生です。高校生でも分かる英語を使うこと(つまり、インターネット等で借りてきた英文は伝わらないことが多い)。
- ② 最低でも 120～150 字程度は書くこと。
- ③ 視覚的な情報を提示しながらのプレゼンとなります。B41枚がパワポの代わりとなるよう、図やグラフ、絵やキーワードを大きく書き、準備をしておくこと(パワポを使いたい人は、担当者に早めにデータを渡すこと)。
- ④ 発表は原稿を暗記した上で行うこと。聞き手は発表内容を要約するので、伝わりやすい発表を心がけること。
- ⑤ 原稿作成から発表まで2学期の評価の対象となります。



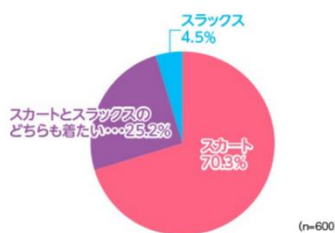
【資料3】

SDGs Presentation

Introduction	<ul style="list-style-type: none"> ○ Hello, everyone. ○ Today, I'm going to make a presentation about SDGs goal number (#). / The title of my presentation is ...
Body	<ul style="list-style-type: none"> ○ Let me give you an example. / For example, ... ○ In other words, ... ○ Here is a graph showing ... / As you can see, ...
Conclusion	<ul style="list-style-type: none"> ○ In conclusion, ... / To sum up, ... ○ Thank you for listening. / Thank you for your attention.

Sample Presentation

Introduction	<p>Hello, everyone. Today, I'm going to make a presentation about SDGs goal number 10, "Reduced Inequalities." The title of my presentation is "The freedom to choose your uniform."</p>
Body	<p>It is important for students to being able to go to school comfortably. Every day, high school students must wear school uniforms. However, at many schools, girls can only wear skirts and boys can only wear pants. Students who do not have the options to choose what they want to wear is bad for their self-esteem and confidence. This makes it uncomfortable for them to go to school. Also, most importantly, it is discrimination against LGBTQ+ students because they can't dress the way they feel most comfortable. Here is a graph showing what uniform high school girls prefer to wear. As you can see, 30% of girls would wear slacks if they had the option. However, in a more accepting environment, I believe this number would be higher. I think that schools should stop using the phrases "girls uniforms" and "boys uniforms" and instead just have uniforms that students can choose which jacket or bottoms to wear. This would make a more comfortable and accepting environment for all students.</p> <p style="text-align: right;">① Current Situation ② Data ③ Suggestion</p>
Conclusion	<p>In conclusion, students having the option to choose their school uniform will allow students to come to school comfortably and create a more accepting society for LGBTQ+ people. We need to create an environment accepting of people from all backgrounds. Why not start with school uniforms? Thank you for listening.</p>



【図3】 あなた自身は、制服はスカートとスラックスのどちらを着用したいですか。(単数回答)

パフォーマンステスト実践例(コミュニケーション英語Ⅱ)

領域：話すこと（発表）	対象学年：2年生	ターゲット CEFR：B1.1
滋賀県モデル「CAN-DO リスト」 到達度目標レベル【 ⑦ 】	<input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 話すこと（やり取り） <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと（発表） <input type="checkbox"/> 書くこと	興味・関心のある様々な話題についての自分の意見を、理由を挙げながら、短い発表やスピーチで伝えることができる。

パフォーマンステストの内容（言語活動の目的・場面・状況など）

<p>プレゼンテーション</p> <p>自分たちが暮らしている高島市について、興味があることを調査し、他府県や県内の他の市町村から高島市に移住しようと考えている人たちに高島市の魅力を伝えることになった。</p> <p>【プレゼンテーションに含めるべき3つのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高島市の基本情報 ・高島市の魅力 ・フィールドワークを通して発見した高島市の魅力 <p>→6人グループで役割分担をして、プレゼンテーションを行う。</p>
--

パフォーマンステスト前後の指導または、学習活動など

<p>〔パフォーマンステスト当日まで〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の内容についてのリテリング活動を通して、これまでに学習した語彙や表現を適切に活用する力を高め、調べた内容を適切に英語で表現できるように指導する。 ・フィールドワークを通して調査した内容をパワーポイント等で効果的にまとめ、英語でわかりやすく説明できるように発表内容の原稿や資料を作成する。
--

<p>〔パフォーマンステスト当日〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションに向けた練習(最終確認)を行う。 2. 6人1グループになって、プレゼンテーションを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ最大6分。 ・聞き手は他府県や県内の他の市町村から高島市に移住しようと考えている人たちの立場に立って、各グループのプレゼンテーションを聞く。 3. 発表が終了した段階で、プレゼンテーションの資料を Teams 内の授業フォルダーもしくは、ロイロノートの提出箱に提出する。 4. 全てのグループのプレゼンテーション終了後に、最も魅力を感じたグループを選ぶ。
--

<p>〔パフォーマンステスト後〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価基準に照らし合わせて、生徒の発表の様子を評価する。 ・評価シート(当日記入)を作成し、各グループの発表内容を評価する。 ・生徒の発表の様子や準備段階の様子も踏まえ、評価シートを活用しながらフィードバックを行う。

パフォーマンステストの当日の準備物

使用教材など：Genius English Communication II Revised
Lesson5 The World of Miyazawa Kenji Is Our World
ICT 機器 など：BYOD 端末・プロジェクター
使用アプリなど：Teams・ロイロノート

採点の基準

条件：作成したスライドを用いて、指定された条件を踏まえながら聞き手にわかりやすく伝えている。

評価項目

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	・語彙や表現に誤りがなく、適切に使用されている。 ・適切な発音ができおり、わかりやすく説明している。	条件を満たした上で、聞き手に高島市の魅力が伝わるように、調査した内容や自分の考えをわかりやすく伝えることができている。	条件を満たした上で、聞き手に高島市の魅力が伝わるように、調査した内容や自分の考えをわかりやすく伝えようとしている。
b	・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話している。 ・理解に支障のない程度の音声等で話している。	条件を満たして伝えることができている。	条件を満たして聞き手に伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

パフォーマンステスト作成上のねらいと工夫



- ・フィールドワークを実施しながら高島市の魅力を再発見し、学習した語彙や表現を適切に活用しながら自分の思いや考えを発信する機会としたい。
- ・プレゼンテーションの聞き手を他府県や県内の他の市町村から高島市に移住しようと考えている人たちとして設定することで、言語活動の目的・場面・状況を明確にする。
- ・総合的な探究の時間で培った情報をまとめる力や表現力を活用しながら、英語を使った探究学習に取り組む。

パフォーマンステスト実践例（論理・表現 I）

領域：話すこと（発表）	対象学年： 1年生	ターゲット CEFR：A2.2
滋賀県モデル「CAN-DO リスト」 到達度目標レベル【⑥】	<input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 話すこと（やり取り） <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと（発表） <input type="checkbox"/> 書くこと	興味・関心のある話題について、写真や絵などを用いて、短い発表やスピーチをすることができる。

パフォーマンステストの内容（言語活動の目的・場面・状況など）

学校で働いている教職員にインタビューをして、その人物について説明するプレゼンテーションの様子を撮影し、動画データを Flip(旧 Flipgrid)へアップロードする。

パフォーマンステスト前後の指導または、学習活動など

[パフォーマンステスト当日まで]

事前の準備として、授業者は学校で働く先生を紹介した動画を作成する。論理・表現 I の授業において、授業者が作成した動画をモデル発表として、紹介する時間を設定する。視聴した内容についてのスクリプトを与え、インタビューで使用することができる表現をさせる。また、モデル発表で使用されていない語彙や表現の中で、特に有効的な語彙や表現については適宜生徒に与える。

[パフォーマンステスト当日]

- ・動画を撮影し、投稿するアプリ(Flip)のURLの QR コードを読み取らせ、アプリの利用を支援する。
- ・Flip を使い、授業時間内でプレゼンテーションを生徒同士が撮影し合い、パフォーマンステスト課題として Flip 上に提出するように指導する。

[パフォーマンステスト後]

- ・生徒から提出された動画を授業者の端末を用いて、動画内容の確認を行う。
- ・評価基準に照らし合わせて、生徒の発表の様子を評価する。
- ・クラス全体で優秀な作品を紹介することで、学習成果の共有を行う。

パフォーマンステストの当日の準備物

使用教材など：

ICT 機器など:(使用された ICT 機器):生徒 BYOD 端末

使用アプリなど:(使用されたアプリ)Flip (<https://info.flip.com/>)

パフォーマンステストの授業展開例

使用教材など:

40分 教科書モデル文解説 表現説明

10分 データ送信用QRコードの配布・課題提出方法説明

採点の基準

- ・条件1 学校で働く人について具体的なエピソードを含めて発表できている。
- ・条件2 教科書の例以外の表現も使って発表することができている。

評価項目

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	語彙や表現の誤りがほとんどなく、教科書の例以外の表現も使って、聞き手が理解できる英語で発表することができている。	条件を満たしたうえで、具体的な説明やエピソードを含めて発表することができている。	条件を満たしたうえで、具体的な説明やエピソードを含めて発表しようとしている。
b	語彙や表現の誤りが一部見られることもあるが、教科書の例にならって、聞き手が理解できる英語で発表することができている。	紹介する人物について、基本的な情報について発表することができている。	紹介する人物について、基本的な情報について発表しようとしている。
c	bを満たしていない	bを満たしていない	bを満たしていない

パフォーマンステスト作成上のねらいと工夫



Flip を使うことのメリットは3つあった。1つ目は、QRコードを使うことで、操作に不慣れな生徒でも簡単に動画を提出できること。2つ目は、他の生徒とも動画を共有できるということ。3つ目は、教員が生徒の動画を評価しやすいということ。

Flipには、生徒の投稿したすべての動画を、自動で文字起こししたデータをCSVファイルで書き出す機能が備わっている。そのため、瞬時に生徒の発話語数などを確認することができ、評価の際、多いに参考になった。

パフォーマンステスト実践例(コミュニケーション英語Ⅱ)

領域：話すこと（やり取り）	対象学年：2年生	ターゲット CEFR：B2. 1
滋賀県モデル「CAN-DO リスト」 到達度目標レベル ⑩	<input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと（やり取り） <input type="checkbox"/> 話すこと（発表） <input type="checkbox"/> 書くこと	身近な社会的事象について、簡潔に説明し、その要点や自分の意見を適切に相手と交換することができる。

パフォーマンステストの内容（言語活動の目的・場面・状況など）

不要になった日用品をどのように処分するか、ペアで5分間議論して決める。
 議題の日用品) 着なくなったコート、Tシャツ、使わなくなったカバンなど

パフォーマンステスト前後の指導または、学習活動など

[パフォーマンステスト当日まで]

SDGs Goal 12: Ensure sustainable consumption and production patterns に関連して、ファストファッションの功罪、エシカル消費、“mottainai”運動、フェアトレードなどについて、動画や英文などで学習させ、消費活動においてどのような点を改善したいか、自分の生活を振り返り書いたり、話し合わせたりする。

- ・あらかじめ、評価シートを生徒と共有しておく。

[パフォーマンステスト当日]

- ・議論を録画する。
- ・当日のくじで、ペアとテストの順番を決定する。
- ・議題となる「不要になった日用品」は、テストの会場に入室してから発表するように説明する。
- ・テストまでの学習で使用したワークシートを持ち込むことができることとする。
- ・議論が止まっても、5分間はやり取りを継続する時間とする。

[パフォーマンステスト後]

- ・あらかじめ生徒にも示した評価シートで評価する。
- ・生徒はテストの録画を見て、テストまでの学習の過程と、テストでの自分のパフォーマンス、ペアとなった相手のパフォーマンスについて、振り返る。

パフォーマンステストの当日の準備物

- ・テストの順番を決めるくじ
- ・議題となる日用品(現物の準備が困難な場合は画像)
- ・議論を録画するための端末

採点の基準

what	How	How much
<p>【5点】</p> <p>1 不用品の特徴を踏まえている</p> <p>2 環境や作り手に配慮した処分の仕方について伝えている</p> <p>3 社会や生産活動の現状やその問題点を踏まえて話している</p>	<p>【5点】</p> <p>1 語彙や表現を適切に使用している</p> <p>2 相手にも議論を促しながら、伝え合っている</p> <p>3 聞き手に分かりやすい音声で伝えている</p> <p>4 姿勢や身振り手振りに留意しながら伝えている</p>	<p>【3点】</p> <p>5 分間議論を続けた。</p>
<p>【4点】</p> <p>上記の1~3のうち1つが不足している。</p>	<p>【4点】</p> <p>1,2はできているが、3,4のうち1つが不足している。</p>	<p>【2点】</p> <p>発話がたびたび途切れ、やり取りにやや支障がある。</p>
<p>【3点】</p> <p>上記の1~3のうち2つが不足している。</p>	<p>【3点】</p> <p>1~4のうち、2つが不足している。</p>	<p>【1点】</p> <p>発話がたびたび途切れ、議論があまり成立しない。</p>
<p>【2点】</p> <p>上記の1~3のうち、いずれも不足している。</p>	<p>【2点】</p> <p>1~4のうち、3つが不足している。</p>	

評価項目

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	<p>・環境問題や生産・消費活動について論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。</p> <p>・環境問題や生産・消費活動について、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように、学習したことを活用しながら相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。</p>	<p>自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、学習したことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。</p>
b	<p>「a」のうち一部不足しているが、議論全体の理解にはほぼ支障はない。</p>	<p>「a」のうち一部不足しているが、やり取り全体にはほぼ支障はない。</p>	<p>「a」のうち一部不足しているが、工夫して伝え合おうという態度が認められる。</p>
c	<p>「b」を満たしていない。</p>	<p>「b」を満たしていない。</p>	<p>「b」を満たしていない。</p>

パフォーマンステスト作成上のねらいと工夫



- ・授業での学習事項を、改めて復習して臨める内容とした。
 - ・授業における議論で、議論の質を向上させることに留意させ、議論のスキルトレーニングをさせてテストに臨ませる。
- 例) 論点を明確にするための聞き返し、相手の意図を確認するための言い直し、話しにくそうなメンバーに対して発言を促す質問など。

パフォーマンステスト実践例(英語コミュニケーションⅠ)

領域：話すこと（発表）	対象学年：1年生	ターゲット CEFR：A2.2
滋賀県モデル「CAN-DO リスト」 到達度目標レベル【 ⑦ 】	<input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 話すこと（やり取り） <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと（発表） <input type="checkbox"/> 書くこと	興味・関心のある様々な話題についての自分の意見を、理由を挙げながら、短い発表やスピーチで伝えることができる。

パフォーマンステストの内容（言語活動の目的・場面・状況など）

<p>英語でセルフ・プロモーションをしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ My Interest というテーマで1分程度の英語を用いたプレゼンテーションを行う。 ・ 発表はクラスの前で行う。（パワーポイントで作成したポスターや写真をプロジェクターで提示） ・ 情報共有アプリである Flip を活用して、発表の様子を録画した映像を学校内外に限定公開する。活動を通して、英語で発信することへの生徒のモチベーション向上に繋げる。 ・ それぞれのプレゼンテーションに対して生徒から質問をさせ、英語で答えさせる。
--

パフォーマンステスト前後の指導または、学習活動など

<p>〔パフォーマンステスト当日まで〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポスター制作を通じて、発表内容の構想を練らせて、発表内容の概要を組み立てさせる。 ・ プレゼンテーションを組み立てさせ、発表に向けた練習をさせる。（ペアやグループで練習させる） <p>〔パフォーマンステスト後の学習活動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Flip 上に載せたプレゼンテーションの映像を視聴させ、相互に評価させ合うとともに、自身のプレゼンテーションの振り返りを行わせる。

<p>〔パフォーマンステスト当日〕</p> <p>以下の学習活動の流れで指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションの原稿を教員に提出させる。 2. 一人ずつ前に出てきて1分間のプレゼンテーションを行うように指示する。 3. 授業者が生徒のプレゼンテーションを録画する。（テスト後の評価素材とする。） 4. 少なくとも1名（前の発表者）が質問を行う。発表者は質問に答えるように指示する。 5. 聞き手が評価シートに評価とコメントを記入する時間を設ける。
--

<p>〔パフォーマンステスト後（相互評価について）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価基準に照らし合わせて、生徒の発表の様子を評価する。 ・ Flip 上の映像を視聴したり、自動字幕機能などを用いたりして、生徒の英語力を客観的に評価する。 ・ 生徒の発表の様子を言語面と内容面から、Teams 上でフィードバックする。 ・ Flip のアプリ内で録画したプレゼンテーション映像を限定公開し、作成したセルフ・プロモーションを他クラスの生徒や海外の高校生に評価をしてもらうことで生徒の英語に対するモチベーションの向上に繋げる。
--

パフォーマンステストの当日の準備物

使用教材など：ワークシート（プレゼンテーションの原稿）

相手に紹介できる写真や映像など

ICT 機器など：BYOD 端末（スマートフォンを含む） プロジェクター

使用アプリなど：Flip(パフォーマンステストの事前事後に使用)

採点の基準

条件1 自分が好きなことがしっかり伝えることができている。

条件2 なぜそれを好きになったかについてしっかりと伝えることができている。

条件3 聞き手の関心を惹きつけ、質問などにも答えることができている。

評価項目

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	・語彙や表現が適切に使用されている。 ・聞き手にわかりやすい音声等で話して伝えている。	3つの条件を満たした上で、自分の関心のある事柄について、聞き手に合わせてわかりやすい構成や表現の仕方で話している。	3つの条件を満たした上で、創意工夫を凝らした発表をすることができる。
b	・多少の誤りがあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話している。 ・理解に支障のない程度の音声等で話している。	3つの条件を満たして話している。	3つの条件を満たした上で、プレゼンターを行い、発表することができる。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。



パフォーマンステスト作成上のねらいと工夫

- ・プレゼンテーションの様子を映像として、記録することで、プレゼンテーション後にも教師や生徒が繰り返して視聴できる。それにより、発表後の指導の充実や生徒が互いのことを知る機会としたい。
- ・質問者や聞き手を設定することで、紹介する内容についてメモをさせたり、語彙や表現を適切に選び、聞き手に伝わる話し方を考えさせたりしたい。
- ・Flipを活用することで、海外の学校との交流活動を行い、英語に対するモチベーションの向上を図る。